

# 個別の支援計画

〇〇中学校

〒

〒

FAX

記入者 〇〇 〇〇 (H27.〇.〇記入)

中学3年	氏名		性別		生年月日	平成	年	月	日
保護者氏名				住所					
				電話番号					
療育手帳									
身障者手帳									
主障害									
担任名	(中1) △△		(中2) □□		(中3) ○○				
教育歴	3歳〇ヶ月 〇〇幼稚園入園 6歳〇ヶ月 〇〇小学校入学 12歳〇ヶ月 〇〇中学校入学								
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WISC-III 言語性IQ〇〇 動作性IQ〇〇 全検査IQ〇〇 (H2〇.6)◇◇センター</li> <li>・教研式新学年別知能検査サポートISS〇〇 (H2〇.〇)□□中学校</li> <li>・視覚的な情報処理よりも、聴覚的な情報処理が得意な傾向が見られる。活動のペースが同学年集団よりもゆっくりである。</li> <li>・小学校時には音に対して過敏性が見られ、陸上競技を行うときのピストルの音に怯えて教師のそばに来てうずくまり、耳をおさえることがあった。中学校では、音を気にする様子は多少見られたものの、通常通りに陸上競技に参加することができた。</li> <li>・絵を描くことが好きで、コツコツと作品を仕上げることができる。</li> </ul>								

	課題 または ニーズ
本人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と仲良く活動したい。楽しく中学校生活を送りたい。</li> <li>・困ったときには助けてほしい。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペースが遅いが、やればできるので見守ってほしい。</li> <li>・とっさに判断することや自分の気持ちを表現することが苦手なので、目をかけてほしい。</li> <li>・理科実験や調理実習などグループで活動する場合、誰が何をするか役割分担を明確にして、本人も参加できるように配慮してほしい。</li> <li>・体力的に弱いところがあり、体育では配慮をしてほしい。</li> <li>・心配事などストレスでトイレに行きやすくなる。頭痛・腹痛を訴えることもある。</li> <li>◎新しい友達ができるまでの間、孤立しないか心配である。同じ中学校出身の人を同じクラスにしてほしい。</li> </ul>

	学校生活
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったことが起きたら、周囲の友達や教師、支援員に自分から伝えることができるようにする。</li> </ul>
支援策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の目の行き届きやすい教室前方に座席を配置する。</li> <li>・困ったときに頼りにできる友達を、班や座席の近くにおく。支援員を学級に配置し、何か困ったと本人がサインを送ったときには対処する。担任は毎日本人に声をかけて様子を観察するとともに、本人との信頼関係づくりに努める。</li> <li>・とっさの出来事に対しては、教師が本人、周囲の生徒に言葉をかけて、どのように対処すればよいかを具体的に伝えて行動を促すとともに、トラブルの未然防止を図る。</li> <li>・本人の活動のスピードが遅いことで周囲とトラブルにならないように、教師は活動量を調節するとともに、周囲の態度についても気を配る。</li> <li>・板書をノートに書ききれないときには、支援員が付箋に書いて渡す。</li> <li>・作業的な活動に時間がかかるが、できるだけ自分の手で行うことができるようにする。</li> <li>・判断が必要な場面でできない場合には、二者択一にするなどして判断しやすくする。</li> </ul>